

第4章 今後10年間で重点的に取り組んでいくこと

本計画が目指す望ましい環境像や環境目標を実現するためには、広範囲な分野にわたる取組を総合的に推進するとともに、各主体が積極的に取組を進めていくことが重要です。

このため、計画を推進するものとして、市民・事業者とともに、特に重点的に取り組んでいくテーマを以下に掲げます。

施策の柱	重点的に取り組んでいくテーマ
1 みどり等との共生	みどりを誇りに思う意識の醸成 狭山丘陵、生け垣、水辺、農地等の本地域の貴重な自然環境を次世代に引き継ぐため、本地域のみどりを誇りと思う市民の意識の醸成を図ります。
2 エネルギーの有効利用の推進	エネルギーについて知る機会の創出 市民・事業者がそれぞれ、エネルギーを有効に利用していくため、市の取組や事業者の取組を広く発信することで、市民や子どもの環境学習に役立て、次なる取組の創出を促進します。
3 4Rの推進	市民とともに4Rを推進 市民等と連携を図り、ごみの排出抑制の取組を進めるとともに、可燃ごみの中で多くの割合を占めている生ごみの減量化、堆肥化などに取り組めます。
4 生活環境の保全	地域環境情報の収集・周知 法令に基づく環境に関する情報に加え、地域の情報（気温等）を把握し、情報発信することを検討します。
5 環境行動・教育の推進	市民・事業者の取組の把握とその行動支援 現在、市民・事業者の取組の把握が不十分であることから、市民・事業者等の取組を把握し、広く発信していくための仕組みを検討するとともに、各種情報提供や情報発信を行っていきます。



みどりを誇りに思う意識の醸成

●背景

本市の狭山丘陵、生け垣、農地、水辺等の貴重な自然環境は、まちの誇りであり、次世代に引き継いでいくべきものですが、一方で、市民にとってこれらの自然環境は身近なものであり、特別な存在とはなりづらい可能性があります。また、みどりは維持管理等の負担もあることから、適正な管理がされず、苦情等につながってしまう課題も抱えています。そこで、これらの自然環境が当たり前のものではなく、貴重な財産であることを地域で位置づけ、知ってもらう取組が重要と考えます。

●取組内容（イメージ）

環境フェスタなどの市民が集まる場所において、丘陵地や生け垣などの地域の自然環境に関する情報発信を行うとともに、次世代に残したい自然環境風景の写真コンテストを行うなど、市民が自然環境に目を向けるとともに、その風景をストックしていくための取組を行います。また、生け垣コンテストなど専門家等からの評価や市民からの投票などにより、生け垣が市民の財産であるという意識の醸成を図ります。

エネルギーについて知る機会の創出

●背景

市の公共施設等における取組や事業者の自主的な取組など、有効なエネルギー利用のための取組が市内では数多く実践されています。一方で、民間での取組状況について、市では把握が不十分であるのが現状です。また、市内事業者の身近な取組は、市域の他の事業者の参考になることや地域での活動及び家庭生活での取組のきっかけになることも期待されます。

そこで、市内事業者の取組の把握を行うとともに、その取組を市民や子どもたちに伝えていくことも重要と考えます。

●取組内容（イメージ）

エネルギーを身近に感じてもらえるよう、省エネナビ貸出しなどの取組を進めるとともに、市内公共施設や市内事業者の省エネや再生可能エネルギー導入の検討について、関係機関等から募集を行い、事業者等と連携を図り、これらの取組を題材とした市民や子どもたちの環境学習の場の提供や、エネルギーに関する新たな制度や技術について積極的に情報提供を行います。

市民とともに4Rを推進

●背景

4Rの推進では、マイバッグを持ち、レジ袋を断ったり、食べ物を残さないなどごみを出さない取組も必要です。

一方、本市では、現在、生ごみを燃やせるごみとして、小平・村山・大和衛生組合で焼却処理しています。平成21年度に実施したごみの組成調査によると、燃やせるごみの割合は50%程度が生ごみです。そこで、市では、モデル地区を設定し、「生ごみ堆肥化モデル事業」を平成26年度から実施し、引き続き取り組んでいきます。

●取組内容

4Rについて、生活環境の中や学校環境の中で実践してもらえるように普及啓発を行います。また、平成26年度から行っている「生ごみ堆肥化モデル事業」の取組を検証し、その情報を発信して、市域へ広げていく取組を行います。

廃棄物の処分量軽減、収集効率向上のため、生ごみの水切り運動（生ごみ水切りアイデア集（ぬらさない、絞る、干す等）の募集、水きりグッズの配布など）を並行して行うなど、多様な取組を検討し、実施していきます。

地域環境情報の収集

●背景

法令で定められた環境に関する情報（大気、水質、土壌、騒音など）は、定期的に把握されていますが、近年、気候変動の影響がみられる気温については、市内データが把握できていません。

そこで、地域の情報を把握し、市民に広く知ってもらうことも重要です。

●取組内容（イメージ）

具体的な取組としては、市内の学校等の百葉箱内にデータロガー付サーミスタ温度計を設置し、真夏日日数、熱帯夜日数、平均気温などを把握することが考えられます。

また、市民・事業者の協力を得て、気温の測定などに参加していただくことも考えられます。

市民・事業者の取組の把握とその行動支援

●背景

市民・事業者の環境に関する取組や意識は10年前に比べて高まっていますが、市ではその取組状況を把握できていない状況です。

市民・事業者の取組を支援する方法のひとつとして、市民・事業者の取組を身近な事例として発信していくことも重要と考えます。

●取組内容（イメージ）

情報を把握していくために、市民・事業者・団体・学校などを対象に、取組を募集したり、取組を促進するために表彰制度を創設するなどが考えられます。

表彰のための評価や表彰式を市民公開型又は市民参加型で行うことにより広く発信し、市民や事業者の行動促進につながるような取組を行っていくことが重要と考えます。

具体的な取組を行っていない市民や事業者に対し、環境に関する情報を継続的に発信したり、地域の環境に関わることができる機会を創出していくことも重要です。